

山陽小野田市 LABV プロジェクト 合同記者会見

SCENE 1



左から、小野田商工会議所藤田敏彦会頭、藤田市長、(株)山口フィナンシャルグループ 椋梨敬介代表取締役社長グループ COO

■これまでの経緯

商工センターは、築40年を経過して建物の老朽化が著しく、建て替えについて庁内で今後の方向性を検討する中で、整備計画地近くで同じく建て替えを検討していた山口銀行に連携を打診。商工センター内に拠点を有する小野田商工会議所との協体制度を構築し、3者で建て替えを検討していく見通しがついたため、施設再整備とあわせて当エリアのにぎわい創出と交流人口の増加等を目指す取組として、LABVの手法による事業化に取り組むこととしました。

■今後の予定

【今年度末】

- ・事業構想策定
- ・実施方針の公表

【令和3年度】

- ・事業パートナーの公募・選定
- ・LABV共同事業体を設立・事業計画策定

【令和4年度】

- ・設計・建設に着手



商工センター（外観）

市は、商工センターの跡地を活用した再開発をこれまで国内で事業化された事例がないLABV（Local Asset Backed Vehicle 官民協働開発事業体）の手法で取り組むこととし、7月28日、商工センターで事業パートナーである小野田商工会議所および(株)山口フィナンシャルグループの3者で合同記者会見を行いました。

LABVは、市が市有地を現物出資し、民間事業者が資金等を出資して設立する共同事業体が、公共施設と民間収益施設を複合的に整備する手法で、民間が主導し、市が支援するプロジェクトです。「広場を活用した多世代が集う交流・にぎわい拠点」を事業コンセプトとし、敷地内には市の施設（出張所、市民活動センター、中央福祉センター）、小野田商工会議所事務所、山口銀行小野田支店、その他テナントの整備を予定しており、有力テナントの1つとして、山口東京理科大学の学生寮を想定しています。この事業は、「単なる複合施設建設ではなく、地域の課題解決に資する拠点開発を行い、地域に波及させていくプロジェクトを目指す」という共通認識のもと、「にぎわい再創出」を目指しています。

藤田市長は「LABVの取組は今後のまちづくりの試金石となる。協創のまちづくりを象徴する1つの事例として、官民一体でスマイルシティ山陽小野田をつくっていきたい」と話しました。